

活動内容

人文知の普及・発信活動

■ 人文知応援大会の開催（1回/年）

人文知について、社会に広く発信するための大規模な大会を開催しました。第1回は、以下のテーマで開催しました。

「コロナという災厄に立ち向かう人文知」

第1回
大会

日時
令和3年2月27日（土）

会場
一橋講堂
※オンライン配信により実施
(〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋 212 学術総合センター内)



■ 各種セミナーの開催や会員との交流

様々な制約下ですが、各種セミナーや、参加いただいた会員の皆さまとの交流活動を、できる範囲で企画して行く予定です。

■ 人文知応援メッセージの発信（随時）

各種メディアを通して、フォーラムメンバーが人文知の大切さを発信します。

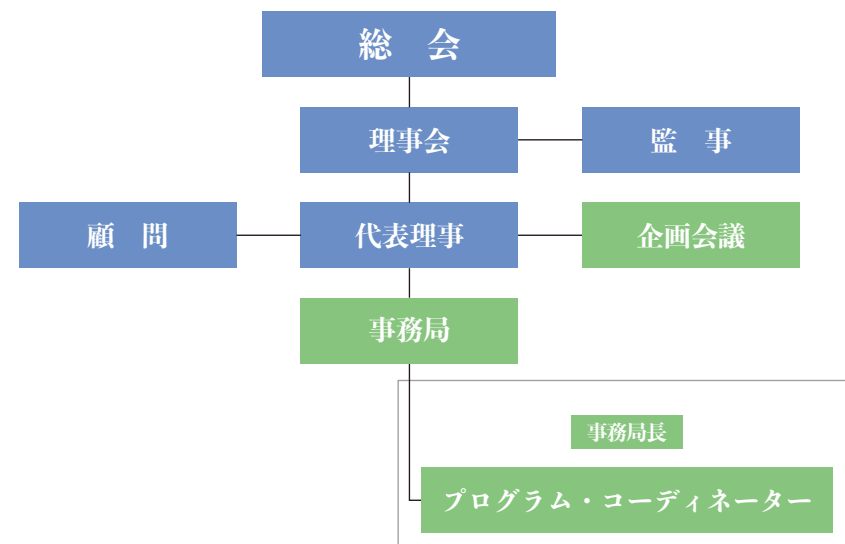


今後の更なる事業展開

■ 人文知推進活動の発掘、顕彰

全国各地で行われている人文知に係る様々な活動を発掘し、活動している人々を勇気づけるための賞を創設したいと考えております。今後、本活動に賛同いただける企業や団体等を募り、実現に向けて検討してまいります。

組織図



人文知応援フォーラム設立宣言

「人文知」は、文化を愛で、芸術に親しみ、人文学を身につけることを通じ、自ずから人の心の中に生まれてくるしなやかで強靱な「知の力」です。それは、人生をより豊かにし、世界に通用する人材を育てる力の源泉になると同時に、社会の姿を整え、国の立ち位置を固め、ひいては、世界を和やかに保つためにも力を発揮します。さまざまな要素が複雑に絡み合い、社会の根底を支える価値観さえ揺るがされかねない今の世界に生きる日本では、そのような「人文知」を磨くことの意味と意義はこれまでになく高まっています。

私たちはそのことを深く心に刻み、これからの日本で文化、芸術、人文学の研究が一層進展するよう微力を尽くすとともに、文と理を超越した知の総体としての「人文知」が日本の社会の中で広く生かされるよう、ここに「人文知応援フォーラム」を設立し、多くの人たちと連携しながら応援活動を展開します。

令和元年10月21日
人文知応援フォーラム一同

入会のご案内

本フォーラムの活動にご賛同いただける、賛助会員を募集予定です。
賛助会員になられた個人・団体の皆様には、人文知応援大会、セミナー等にご招待いたします。

入会の手続きにつきましては、本フォーラムホームページをご覧ください。

申込み・問合せ

一般社団法人 人文知応援フォーラム 倉敷事務局

〒710-0055 岡山県倉敷市阿知2丁目25-33 三楽会館内
TEL : 086-436-7002
E-mail : info@jinbunchi.or.jp

ホームページ
URL : <https://www.jinbunchi.or.jp>



「人文知」は、文化を愛で、芸術に親しみ、
人文学を身につけることを通じて、
人の心の中に生まれてくる
しなやかで強靱な「知の力」です

一般社団法人

人文知 応援フォーラム

人文知応援フォーラムは、これからの日本で文化、芸術、人文学の研究が一層進展するよう微力を尽くすとともに、「人文知」が日本の社会の中で広く生かされるよう応援活動を展開します

人文知って
そもそも何？

生きていく
ために必要？

人文学とは
違うの？

どうやって
身につけるの？

これらの疑問を、人文知を大切に思う同志が
分かりやすく社会に発信します

フォーラムの紹介

これまで、日本は、何度も何度も、大きな困難に直面してきました。そのたびに、日本は超人的な力を振り絞ってそれを克服してきました。

その歴史を振り返ってみると、苦難と闘ってきた人等を支えてきたものが見えてきます。それは、深く豊かな人間的な力でした。小手先細工ではなく、理屈や技量だけでなく、もっと深いところから湧いてくる知恵とエネルギーでした。

私たちは、その知恵とエネルギーの源泉を「人文知」と名付けます。それは、人が文化、芸術、人文学と親しむ中で身につけてくる素養であり、力量でもあります。

「今の日本に必要なのは、この『人文知』である、これが広く伝わってこそ、私たちはこの困難な世界を堂々と生き抜いて行くことができる」と私たちは考えています。その思いを共有する同志が集まって出来たのが「人文知応援フォーラム」です。

人文知応援フォーラムは、今後とも多くの同志を糾合して、「人文知」がもっと生きて働けるよう応援して行きたいと思います。

まだ生まれたてのフォーラムですが、よろしく願い申し上げます。



代表理事 **大原 謙一郎**
公益財団法人 大原美術館 名誉館長

フォーラムが目指すもの

“ひとはどう生きるべきか”が改めて問われています。

文明は人類を豊かにした半面、自然の生態系に甚大なダメージを与え、その代償である温暖化や感染症は深刻度を増すばかりです。

他方人類自身の社会も管理できていません。不平等が社会を分断し、政治不信と資本主義への疑問を生んでいます。経済成長は富を生む一方、限りなき欲望の追求、それが満たされぬ不満を表出させました。その上自ら作ったAI（人工知能）に支配されることへの不安が語られています。

文明の基盤である合理性と細分化された専門性は、自然と人間のいずれも十分管理できず、問題は先送りされ、社会は漠とした不安に覆われています。

ではどうすれば良いのでしょうか？シナリオは用意されていません。人間は偶然この世に生まれたに過ぎないからです。人間が自分の意思で自らの生き方を決めていかなければなりません。AIに頼ることもできません。AIは「生きること」の意味が分からないからです。

正しく生きるための叡知の多くは暗黙知の形をとっています。それは先人の叡知が言語化された古典に、ひらめきを生む芸術に、そして各自が親しむ伝統行事に蓄積されています。その総体が「人文知」なのです。それは仲間と交流し、対話を重ねるところに現れてきます。このフォーラムはそのための場なのです。



代表理事 **近藤 誠一**
近藤文化・外交研究所代表
(元文化庁長官)

人間文化研究機構との連携事業の推進

人間文化研究機構は、人間文化研究に関わる6つの大学共同利用機関（国立歴史民俗博物館、国文学研究資料館、国立国語研究所、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所、国立民族学博物館）によって構成され、文理を含む国内最大級の研究者集団として、「人間とその文化」を俯瞰することのできる大きな研究の総合化を目指しています。

このような、文と理を超越した知の総体としての「人文知」を社会に普及するために、人文知応援大会等の共同企画・実施など、本フォーラムとの連携事業を推進し、日本における人文知及び人文学のプレゼンス向上に共に努めて参りたいと思います。



理事 **平川 南**
大学共同利用機関法人
人間文化研究機構 機構長

人間文化研究機構ウェブサイト：<https://www.nihu.jp>

人文知コミュニケーターとは：<https://www.nihu.jp/ja/training/jinbunchi>

人文知を守り、未来につなげたい

我々の日常を考えると、生活に直結するイノベーションやテクノロジーに関する話題がメディアで大きく取り上げられ、人々の関心もそちらに集まっていますが、一方で、人文知の重要性は誰もが本質的には理解していることもまた事実だと思います。私はこの応援フォーラムの活動を通して、古くから蓄積されてきた人文知を守りたいと考えています。コロナ禍を通じて我々はこれまでの価値観と生活様式を見つめなおし、大きく変えることを迫られました。このタイミングで人文知応援フォーラムが立ち上がったことに非常に大きな意味を感じています。人文知を守りこれからの世代につなげることで、人文知とこの国のより良い未来をつくっていききたいと考えています。

人文知への大いなる期待

コロナ禍でこれまでにない不安とストレスに押し潰されそうになります。明日は今日の続きだと盲信していた頃が懐かしくもあります。

そんな中で、ある知り合いの若い哲学者と「心」について話しをする機会がありました。英語のheartではない「こころ」についてです。ほんの1時間ほどの語らいが私の干上がりそうなココロを救ってくれました。生物学的か、経済的な価値かに囚われがちなこの困難時にあって、社会の中で、歴史の中で存在する人間として、どう生きるべきかへと話は続きました。

目先の成果や利益を追うことに腐心するのではなく、不確実な世界を強く生きるための柔らかな心を持ちたいと願います。

そのための大きな手助けに、人文知がなってくれると信じています。

今こそ求められる『人文知』

～経済界の立場から～

日本経済、ひいては人類社会の発展にはイノベーションの創出が不可欠ですが、社会経済システムが複雑化し、価値観も多様化する昨今、特定の専門分野のみの探求では、その実現は極めて困難であり、自然科学のみならず、人文社会科学などの幅広い知識・教養を身に付けて、人間社会を複眼的に捉える視点が必要となります。

私はかねてより、経済界の立場から「人文知」の重要性を訴えており、国立大学改革の議論の際には、人文社会科学を含む幅広い教育が大切であることを主張し、政府方針に反映頂きましたが、こうした努力も奏功し、最近では科学技術基本法の改正や、同基本計画の検討にも「人文知」の重要性を取り上げて頂いたものと考えています。

今回、本フォーラムへの参加を機に、諸活動を通じ、引き続き「人文知」の普及啓発に尽力したいと思います。

「人間の知」としての人文知

人文知とは、「人間（について）の知」です。かつて古代ローマの劇詩人が「私は人間だ、人間的なものはすべて私には無縁ではない」と述べたその「人間知」です。具体的には「人間知」の習得涵養は、「教養」の理念“Everything of something, something of everything.”と結びつきます。人はある分野（専門領域）については、徹底してすべてを知らなければならないと同時に、他のあらゆる分野についても、何ほどの知識を持たねばなりません。人間として生きるとはそういうことです。「学問・文学（litterae）のない人生は死である」と哲人セネカも言っているように。



理事 **大林 剛郎**
株式会社大林組 代表取締役会長



理事 **草野 満代**
フリーアナウンサー



理事 **榎原 定征**
一般社団法人
日本経済団体連合会 名誉会長



理事 **高階 秀爾**
東京大学名誉教授・日本芸術院会員

テクノロジーと人類の調和

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界を鎖国状況に追い込み、グローバル化の動きが急停止しました。ヒト・モノ・カネが国境を越えて流動するグローバル化の波にのってウイルスも拡散しています。

人々が分断され、孤立する中で、閉塞感が広がり、いわれなき差別や誹謗中傷が横行し、時に暴力が吹き荒れました。他方で、オンラインを活用した会議や癒しの動画発信など、ICTに代表される新しいテクノロジーが人々の絆を取り戻す動きも見られます。

テクノロジーか人間か、科学か人文学かという二項対立ではなく、人間性を回復し、テクノロジーと人間の調和を可能にするために、しなやかな知性と感性に裏付けられた総合的な人文知の働きが求められています。

教養を探す仲間

今の若者の本離れは、おそらく世間に伝えられている現状よりも、もっと深刻なものがあります。本を通じて得る「教養」というものを放棄しているような気がしてなりません。

「教養」は持たなければ持たないで済む。その入り口を探すことをしなくては見つからないものです。しかしその入り口にたどり着かないのはなんと貧しい人なのか。生きていく旅の途中、多くの知に触れることは、人間の大きな幸福のひとつです。決して上から目線ではなく、一緒に旅を続ける仲間として、行動を起こしたいと思います。



理事 **長谷山 彰**
慶應義塾長



理事 **林 真理子**
小説家・エッセイスト

科学や技術の推進・振興にも

人文知が必要である

C・P・スノーがかつて『二つの文化』の中で述べたとおり、世界を人文知（The humanities）と理系知（The sciences）に分断することは、世界を視るための、総合的な視点、統合的な思考を大きく損なうことになると思います。若い人たちの進路を早い段階から文系と理系に分けてしまうこともあまりよいことではないと考えます。昨今、特に、人文知の危機が懸念されていますが、科学や技術を推進・振興する上で、人文知がもたらしてくれる時間軸、歴史軸がより必要になることを訴えていきたいと思います。わたしの専門に関していえば、生命科学を考える上で、生命哲学や生命観の変遷、生物学史といった人文知がなくてはならないと考えています。



理事 **福岡 伸一**
生物学者 青山学院大学教授
米国ロックフェラー大学客員研究者

日本人と人文知

六十の手習いでお茶を始めました。お茶は中国伝来ですが、千利休が日本文化の原型として確立しました。それが庶民だけでなく、江戸時代には大名茶として、明治以降は経済人のお茶としても親しまれてきました。それは、お茶が、社会が大きく変化していく中でも、人々が自らの原点に立ち返るやすがであり続けてきたからです。お茶に限らず、日本には様々な人文知があります。禅においてしかり、俳句においてしかりです。新型コロナウイルスの感染が広がり、変化が激しく不確実で複雑、曖昧（VUCA）といわれる時代になってきているからこそ、人々がその原点に立ち返ることが、日本の発展に、そして一人ひとりの幸せにつながるはずで、多くの人に、人文知の応援に加わっていただきたいと思います。



理事 **松元 崇**
国家公務員共済組合連合会理事長
(元内閣府事務次官)